



田植え体験をする
竜野保育園の園児たち



審議結果ほか	②・③
そこが知りたいQ & A	④
一般質問(4人)ここが聞きたい	⑤～⑧
一般廃棄物処理施設建設候補地の選定(全員協議会)	⑨
町民の声・甲佐高校生傍聴感想	⑩

平成30年第2回定例会

平成30年第2回（6月）定例会は、6月8日から12日まで5日間の会期で審議を行った。開会后、奥名町長が町提出案件の提案理由を述べた。

議案審議では、持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険の条例改正等の専決処分、町有地敷地内に係る訴えの提起、町道船津上早川線の路線認定、平成30年度各会計補正予算など町長提出の17案件を慎重に審議し、すべて原案のとおり可決・承認した。11日の一般質問には、4人の議員が登壇し、熊本地震被災者の支援、小学校施設の維持管理、農業の実状と課題、震災に強い町などについて活発な議論が交わされた。

町道に認定された船津上早川線（船津）



○人権擁護委員候補者に元村伴子氏



元村 伴子氏

現人権擁護委員の豊永康法氏（横田）が平成30年9月30日で任期満了となることから、候補者として元村伴子氏（横田）を推薦することに諮問があり、全会一致で適任と答申することを決定した。

平成30年6月定例会の審議結果

区分	議案等	概要	審議結果
人事	人権擁護委員候補者の推薦について	元村伴子氏（横田）を適任と答申	適任
専決処分	平成29年度甲佐町一般会計補正予算（第8号）	965,873千円を減額し、予算総額を11,170,409千円とする。	承認
	平成29年度甲佐町国民健康保険特別会計補正予算（第5号）	11,096千円を減額し、予算総額を2,031,649千円とする。	承認
	平成29年度甲佐町介護保険特別会計補正予算（第4号）	1,248千円を減額し、予算総額を1,588,123千円とする。	承認
	甲佐町税条例等の一部を改正する条例の制定	地方税法の一部を改正する法律その他が平成30年3月31日に公布され、同年4月1日から施行されることに伴い、本条例の改正が必要となったもの。	承認
	甲佐町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定	地方税法等の一部を改正する法律その他が平成30年3月31日に公布され、同年4月1日から施行されることに伴い、本条例の改正が必要となったもの。	承認 (反対1人)

2ページのつづき

区分	議案等	概要	審議結果
専決処分	甲佐町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定	持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律が平成30年4月1日から施行されることに伴い、本条例の改正が必要となったもの。	承認
報告	平成29年度甲佐町一般会計 *1 繰越明許費繰越計算書の報告	26事業2,873,527千円が翌年度繰越しとなった。	報告
	平成29年度甲佐町一般会計 *2 事故繰越し繰越計算書の報告	震災関連事業に係る建築資材及び労働需要の急増から資材及び人材確保に不測の日数を要したため、6事業1,057,724千円が翌年度繰越しとなった。	報告
	平成29年度甲佐町介護保険特別会計繰越明許費繰越計算書の報告	1事業428千円が翌年度繰越しとなった。	報告
	平成29年度甲佐町水道事業会計予算繰越計算書の報告	震災後の復興需要の急増による作業員不足により、工事が遅れ、工期延長となったため等の理由で3事業66,240千円が翌年度繰越しとなった。	報告
条例	甲佐町消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定	団員数の減少に伴い、消防団員の定数を変更するため、本条例の一部について改正する必要があるもの。	可決
	企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律等の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例の制定	企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律等の一部改正に伴い、本条例を制定する必要があるもの。	可決
訴えの提起	訴えの提起について	グリーンセンター用地の一部についての所有権移転登記にあたり、時効取得による所有権移転登記手続請求事件の訴えを提起するため。	可決
町道認定	町道の路線認定について	町道船津上早川線を新たに道路法第3条第4号の町道として認定するため。	可決
予算	平成30年度甲佐町一般会計補正予算(第1号)	296,513千円を減額し、予算総額を8,138,611千円とする。主なものは、安津橋運動公園整備費185,000千円の減額など。	可決
	平成30年度甲佐町介護保険特別会計補正予算(第1号)	2,884千円を増額し、予算総額を1,523,220千円とする。主なものは、介護保険システム改修事業2,379千円を増額など。	可決

※ 審議結果欄の“承認”及び“可決”は全会一致または賛成多数によるものです。

【用語の説明】

- *1 繰越明許費・・・年度内に経費を使用し終わらないおそれがあることが予想されるものについて、予算の定めるところにより、翌年度に限り繰り越して使用することができる経費のこと。
- *2 事故繰越し・・・年度当初等に繰り越しを予想しなかったが、避けることのできない事故のために年度内に支出が終わらなかった経費を翌年度に繰り越して使用すること。

そこが 知りたい Q & A

6月定例会 質疑から

消防団員の定員について

Q 分団を統合したのは将来にわたり団員数の減少を見越しているのではないか。

A 今回の再編については、小規模の10人を下回る部が幾つかあったが、部と部を単純に統合しただけでは団員の確保にならないということで、部自体はそのまま存続し分団を統合することにより分団内で小規模の部に

対し協力し消防団活動を円滑に進めていくと考えている。



広域農道の町道認定

Q 広域農道を町道認定にする理由は。

A 平成16年3月に県から財産譲与を受けており、現在農道として管理しているが、町道にした場合、今後の維持管理が組みやすい点と農道より有利な交付税措置を受けやすい。



郡操法大会
(グリーンパル甲佐横へりポート)

町道認定された甲佐大橋



たばこ税

Q たばこ税の今後の予想は。

A 加熱式たばこの影響で、3月補正予算では1000万円の減収だが、5年間の増税で試算するのはかなり難しいが、紙巻きたばこの上昇率と加熱式たばこで約2000万円増収するのではないかと期待するところ。



震災被災者医療費減免の復活を

町長 従来からの対応になる



佐野 安春 議員

問 西日本新聞4月3日

の記事では、熊本県保険医協会のアンケートで、回答した医師の46%が「受診控えがある」と答えている。甲佐町の仮設住宅で暮らす女性は「体の不調を感じるが、命に関わらなければ極力辛抱したい」と言われている。仮設自治会長は「家を失い、マイナスから出発する人にとって、医療費負担は大きな不安材料になっている」と訴えている。県内8市町村の医師等へのアンケートでは、57%が医療費免除再開の必要性について「そう思う」と回答している。

医療費免除は、被災自治体希望すれば、特例措置終了後も国が8割を補助する仕組みだ。東日

本大震災で被災した岩手県では、市町村と県が1割ずつ負担して免除を続けている。

熊本県においては、県が減免の復活を現段階ではしていないが、他の自治体と共同して県に対して減免の復活を要望しているか。

奥名町長

医療費等の減免については、国保一部負担金の減免や免除及び徴収猶予、そうした取扱いに関する要綱に基づいた対応になると思う。



建設中の甲佐地区災害公営住宅

学校図書司書一校一人の配置を

町長 組織的教育活動を充実

問 平成29年度の「甲佐

の教育」において、図書教育について甲佐小学校の実践が紹介されている。その中では取組の中で児童の読解力が向上しているとあった。そこには先生の努力と学校司書の存在も有効に機能していたと思う。

町の「第六次総合計画後期基本計画」において、生きる力、豊かな力を育む教育の充実を謳い、学力向上も指標を掲げている。そこには読書活動の推進も掲げている。

成果を上げるためには具体的な手立てが必要ではないか。学校司書一校一人配置へ、町長の考えはどうか。

奥名町長

平成28年度から図書司書を一人配置して、小学校及び生涯学習センター図書室を巡回している。読書指導、読書教育の推進など、各学校における司書教諭など図書教育員や児童生徒の図書委員会活動を通して組織的教育活動を充実していきたい。



甲佐中学校図書室

議員

県下45市町村の中で、一校に一人の学校司書を兼務なしで配置している自治体は13あり全体の約29%に当たる。隣の美里町もその一つだ。

自治体も国も、学校司書の配置については力を入れている。

町として、兼務なしの一校一人の学校司書の配置を是非とも考えて頂きたい。



その他に、熊本地震被災者支援（災害公営住宅家賃減免・同ペット飼育・同居条件に柔軟な対応を）について質問があった。

小学校の環境整備については

町長 花壇の手入れで子どもと触れ合う
こと等も大事



宮本 修治 議員



白旗小学校グラウンド

問 白旗小学校のグラウンドは駐車場として使う時もあり、かなり荒れて草も多い。また、花壇の土も外に落ちていような状況だが、グラウンド整備の年間の維持管理費等はどうなっているのか。

荒田学校教育課長
グラウンドの整備用の山砂等の原材料費として

は、白旗小学校で年間3万円を計上している。

また、環境整備については、白旗小学校だけでなく、全校に連絡を取り、学校全体で取り組んでいくよう指導していきたい。

問 子どもたちが体育の授業や放課後に倒れたり、けがをした場合、緊急車両が出入りするのに白旗小学校のグラウンドへは玄関前の古い橋しかできないし、現在は通れないと思う。

橋の撤去を検討し、在所の方から緊急車両が入れるようにするなど、学校側ともしっかり協議していただきたい。

荒田学校教育課長
この橋については、老朽化しており、熊本地震の影響も受けているので、橋梁調査を行い、撤去するのか、今後の活用を検討していきたい。

問 白旗小学校グラウンドにあるトイレは虫が湧いてくると聞いているが、

改修できないのか。

荒田学校教育課長

外部トイレについては、各小学校とも改修が必要と考える。現段階では、平成31年度に学校施設長寿命化計画を作成する予定で、その計画の中で改修を考えている。

問 自然との体験、いろんな観察する場として「学びの森」が白旗小にあるが、管理体制はどうなっているか。

また、教育長は「学びの森」をどう思うか。

荒田学校教育課長

平成19年度から熊本県「学びの森」活動推進事業を活用して整備を行っている。ハード事業として5カ年で100万円、ソフト事業として毎年30万円を活用している。近年では、28年度に雑木の剪定を行っている。30年度の計画はソフト事業のみで、環境学習としてシイタケ栽培や木工教室が計画されている。

環境整備は児童生徒の安全・安心の完全な確保が第一、加えて環境教育とか情操教育の観点からも、常にきれいに、そして適

学びの森の木も張り出してきているので、学校と協議しながら、予算範囲内での剪定を考えている。

蔵田教育長

児童たちが日常的に自然の中で活動する、そして慣れ親しんでいる貴重な施設なので、安全に使用できるように、そして美しい環境が保たれなければならぬと考えている。

問 学校の環境づくりに

ついてなど、各小学校に足を運び先生に直接話を聞くなどしていただきたい。

環境整備について教育長はどう思われるか。また、町長に考えを聞きたい。

蔵田教育長

学校施設の環境美化、環境整備は児童生徒の安全・安心の完全な確保が第一、加えて環境教育とか情操教育の観点からも、常にきれいに、そして適

切に安全に管理されている必要があると考えており、取り組んでいきたい。

奥名町長

以前、白旗小学校で植栽活動や草取り等も行われていたと思うが、最近では時間的にも難しい面もあるのではないかと思います。

そういう中でも花壇の手入れなど、子ども達と一緒に触れ合うということは非常に大事なこともあると思うので、子どもの自然学習あるいは情操教育の面からも校長会議等も生かしながら、教育総合会議においても環境整備について話したいと思っています。

その他に、甲佐高校女子野球部についての質問があった。



一般質問

本町の農業の課題、労働力確保は

町長 農業を永続的な産業とするためには、外国人労働者の受け入れを検討する時代が来た



宮川 安明 議員

ため、各集落の担い手確保であった。法人への支援は。

議をして進めたい。問 認定農業者の現状は。

さらに、熊本県から国家戦略特区への提案があった。

平成22年3月に策定した甲佐町人材育成基本方針に基づき毎年度研修計画を策定して実施している。

岡本農政課長

設立から3年間は初期運営費用の補助として県費50万・町費20万を限度として事業を実施している。

岡本農政課長

登録数は86人、法人14、個人72、個人の年代別は30代3人、40代7人、50代13人、60代以上49人であり、高齢化、後継者不足の現状が見られる。

農業を永続的な産業とするためには、外国人労働者の受け入れについても真剣に検討を行う時代が到来したという認識を持っている。

職員の資質向上

工夫を重ね根気強く取り組んでいく

① 人材育成を意識した職場研修
② 学習意欲を喚起する職場風土づくり
その他、担当課による研修。

問 本町の農業の現状と課題について。
人・農地プランの目的・現状・課題は。

岡本農政課長

目的は5年後・10年後の将来、誰がどのように農地を使って農業を進めるのか、集落の話し合いに基づいてまとめる計画である。

岡本農政課長

JA上益城が各法人の代表者会議を実施している。農協、町、県で話し合う場にしていきたい。さらに、農業用機械の導入も県の補助が付くよう努力をしたい。

岡本農政課長

問 労働力確保のための対応として国や県は外国人労働者を視野に入れて進めている。
本町では事前に準備をするような考えはないか。

西坂総務課長

平成20年度から平成30年度までの採用者は、職員数124人中、一般職・行政職48人、社会人経験者17人、保健師等の専門職7人、途中退職8人の64人である。

師富副町長

効果をいかにして上げるかいろいろ工夫している。国・県との人事交流の継続、人材育成に重きを置いた制度の運用をするよう人事評価制度を制

現況は農業従事者の高齢化、後継者不足による担い手不足が進んでいる。

問 乙女台地及び糸田地区の圃場整備の進捗状況を聞きたい。

国では外国人の農業分野への従事について、農業従事者の高齢化、後継者不足に対応するため、検討を始めた。

新規採用者が多くな

課題は地域の担い手、労働力をどうするかである。

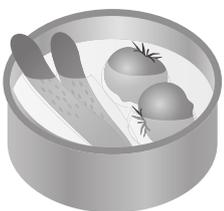
問 法人設立の当初の目標は農業従事者の高齢化に伴う労働力不足を補う

乙女台地の場合は、前回より詳しい意向調査をしているので、締め切り後に推進会議において協議をしていく。

現行の法規定の中では、外国人を農業分野へ労働者として受け入れを行う場合、国家戦略特区、農業支援外国人受入事業、外国人技能実習制度などを活用しなければならなくなっている。

西坂総務課長

職員の教育について、



本町を震災に強い町にするために

くらし安全推進室長

甲佐町震災復興計画に基づき推進していく



荒田 博 議員

佐々木くらし安全推進室長
 これまでに、甲佐町建設業協会、国土交通省九州地方整備局、熊本県トラック協会、コメリ災害対策センター、甲佐郵便

問 災害協定を結ばれた所はどこがあるのか。

佐々木くらし安全推進室長
 必要な方に行き届かなかったとの指摘があり、避難所等に配布し、そこから各地区に行き届くよう配布した経緯もある。配布の方法については今後も検討していきたい。

問 震災時の支援物資の配布が必要な方に行き届いてなかったのではないか。

橋本環境衛生課長
 地震及び豪雨災害以来緑川の水の濁りがなかなかとれないことについては山腹崩壊等で河川に面した山肌がむき出しになったことや、崩落した川の中に堆積した土砂等

問 震災の影響からか緑川の濁りの解消される期間が御船川と比べても時間が必要になる。緑川の濁りの解消はできないのか。

問 震災の影響からか緑川の濁りの解消される期間が御船川と比べても時間が必要になる。緑川の濁りの解消はできないのか。

緑川の水質及び清流への回復は
 合併浄化槽の普及目標を達成し
 関係機関に要望したい

佐々木くらし安全推進室長
 平成28年11月に策定し

問 今後の本町の取り組みは。

局等と大規模災害時の支援活動の協定を締結している。最近では今年3月に生協くまもとと生活応援包括連携に関する協定を締結した。

河川の水質汚濁については、土地利用のほか、地質や降水量、地形などさまざまな要因が考えら

しかし、震災及び豪雨災害発生から約2年間が経過し復旧工事も進んでいることから震災等を要因とする濁りは今後徐々に薄まっていくものと考え

が、出水期に水量が増えたことで押し流されたことが大きな要因ではないかと考える。

が、出水期に水量が増えたことで押し流されたことが大きな要因ではないかと考える。

進めていく。

た甲佐町震災復興計画に基づいて復旧・復興を推進していく。計画の中心は災害対応への体制の確保、震災直後の物資の保管及び供給への対応、正確な情報共有の拡充が中心。災害に強い町にするためにそれぞれの対策を進めていく。



緑川の濁りの状況（美里町地内）

奥名町長
 先般開催された町の嘱託員会議でも緑川の水質について意見が出された。根本的な解決となると町だけでの解決というのは

れ、流域市町をはじめ国・県等関係機関が連携して取り組んでいかなければならない問題と認識し現況報告と要望を行いたい。

非常に厳しいと思う。そういう影響を取り除くために、関係機関との状況把握をした上で町独自でできることもあるので、合併浄化槽を普及することにより水質の改善、あるいは公共用水域の水質浄化といったことを目標に掲げている数字を達成できるようにやった上で関係機関に要望したい。

全員協議会 (6/1)

一般廃棄物処理施設建設候補地の選定について (報告)

熊本中央一般廃棄物処理施設整備促進協議会から、上益城郡5町及び西原村の広域化による新たな一般廃棄物処理施設建設の最終候補地が、評価委員会の答申内容などを総合的に検討した結果、御船町上野「古閑原、古閑迫地区」に決定したとの報告があった。

施設は平成37年度の稼働に向け取り組むとのことだが、熊本市から協議会事務局に対して、6町村のごみ処理について一定期間受託処理が可能であるとの申し出があっており、促進協議会において協議検討のうえ、委託するかどうかを決定している。

九州中央自動車道建設促進沿線議会 協議会総会・決起大会が開催される

7月11日宮崎県高千穂町の「国民宿舍ホテル高千穂」において総会並びに決起大会が開催され、本町からも議員11人が出席するとともに、師富副町長が来賓として出席された。

この協議会は、東西九州を連絡し、九州の一体的、かつ均衡ある発展を図るため、その基盤となる九州中央自動車道（御船〜延岡）の建設を促進し、その早期実現を図ることを目的としている。

現在、嘉島JICから小池高山（益城）間が開通しており、今年度、北中島（山都）までの開通を予定している。



南九州市議会からの行政視察来町

5月17日に鹿児島県南九州市議会の文教厚生及び産業建設の2常任委員会から行政視察で来町された。

熊本地震における本町の応急対応等についてそれぞれ所管する常任委員会から熱心に質疑され、町執行部より丁寧な回答があった。



▲南九州市議会
文教厚生常任委員会行政視察の様子



▼南九州市議会
産業建設常任委員会行政視察の様子

被災者が置き去りにならないように

白旗仮設住宅 児成 豊

あの忌まわしい熊本地震で全ての生活環境が一瞬でなくなり、これからの暮らしをどうしようかと頭を抱えて不安な毎日を過ごす日々でした。

県内で一番最初に仮設住宅が出来て、すぐ入居させてもらい、これでやっとプライバシー、生活する拠点を確保出来たことは、とても喜ばしいことでした。月日が経つにつれて皆さんそれぞれに、これからの生活のことを考えると、精神的不安が全体的にかかり、眠れない夜が多くなり、引きこもり状態などで色々な病気を併発して、救急車で運ばれた人も多々いました。

地震前には、同じ甲佐町に居ても話をしたこともない人達でしたが、震災でこの仮設に入り、この仮設で出会った人達だが、皆で支え合い、励まし合い、笑い合い、今ではずっと昔からの知り合いみたいですよ。それだけでも小さな光を見つけられたようです。今仮設では、住んでいる人達の間で「ハサミ状格差」が生じ始めている。自己再建された方々も未来志向で苦しみながら頑張っているが、高齢化が進む仮設住宅の間では、自力ではどうにもできない歯がゆさ、悲しさ、不安でいっぱいなのが今でも続いています。

町全域が今までに無い被害を受けた震災から2年が経ちました。表面的に復興が進んでも、被災者の気持ち置き去りにならないようお願いいたします。

甲佐高校生の傍聴感想

6月定例会一般質問に甲佐高校の3年生11人が傍聴され、感想を提出されたので、紹介（抜粋）します。

- 議会ではどのように話し合いが行われているかを知ることができ、独特の雰囲気があり、当然ながらとても真剣に話し合いが行われていると感じた。
- 町のこんなところで会議が行われていることを初めて知り、思っていたより緊迫した雰囲気で見ているだけでも緊張しました。
- ちょうど甲佐高校にすることが話し合われており、様々な意見があったものの、皆さんがどのようにしたら甲佐高校に活気が戻るかを考えてくださっているのだと思います。とても嬉しかった。今回傍聴に行けたことはとても良かったと感じた。
- 私は甲佐町に引越して2年目ですが、とても素敵な町だと思っているので、今日のような会議にもっと住民が関心を持ち、議会も住民の意見をもっと聞いていくとより良い町になると思います。
- 甲佐高校の話の中で、少しずつでも生徒が増えてくれると嬉しいので、私も応援したい。もっと甲佐町全体がいい方向に進んでいくように私も頑張りたい。

町民の皆様の議会傍聴をお待ちしています。

お気軽にお越しください。

※平成30年第3回(9月)定例会は、9月7日開会の予定です。

編集後記

田の稲も成長し、残暑が続いておりませんが、町民の皆様はどうお過ごしでしょうか。

地震、大雨から2年と数カ月が過ぎました。災害関係の事業もなかなか進みませんが、議会も町執行部と一致団結をし、復旧・復興の事業に取り組んでいるところであります。来年には災害公営住宅が完成の予定であります。役場裏の風景も変わる事でしょう。皆様も水分をよくとり、熱中症に気をつけて、お過ごしください。(福田)



議会広報編集特別委員会

委員長 荒田 博
副委員長 宮本 修治
委員 福田 謙二
委員 佐野 安春
委員 山内 亮一

